

会議名	令和5年度第4回上下水道事業経営審議会
日時	令和5年12月21日(木) 14:00~15:00
場所	岐阜市役所 6階 6-3会議室
出席委員	富田耕二委員、西垣信康委員、大野一生委員、杉山利夫委員、浅野裕司委員 武藤豪委員、後藤尚久委員(会長)、服部学委員、瀬瀬晴美委員 廣瀬美紀委員(副会長)、遠藤民雄委員、松原孝一委員、武藤仁委員
欠席委員	近藤隆郎委員、森健二委員
次第	1 開会 2 会議 ○審議事項 答申案「下水料金のあり方についての答申」 3 その他 4 閉会
議事概要	<p><b>〈会議(審議事項)〉</b> 岐阜市内の専用水道、答申案「下水料金のあり方についての答申」について事務局より説明</p> <p><b>〈説明事項に対する質疑〉</b> <b>(1)岐阜市内の専用水道について</b> ・特になし</p> <p><b>(2)下水料金の改定について</b> ・委員から、従量料金の料金改定額の配分方針が分かりづらいとの意見があり、答申に資料を追加すると回答</p> <p>・委員から、答申6ページ9行目の「新型コロナウイルス感染症拡大による水需要の変化に加え」という言葉の意味について質問があり、計測器の設置が推進されたことに加え、新型コロナウイルス感染症拡大によって水道の使用実態が大きく変わっている時勢となっていることが、井戸水放流量認定基準の見直しのきっかけとなっていることを強調するために上記のような表現としているが、「新型コロナウイルス感染症拡大による水需要の変化」は、あくまで見直しの理由の一つであるため、大きな意味を持って「加え」と記載したわけではないと回答</p> <p>・委員から、下水料金の平均改定率の規模が、今後の人口減少や施設の維持管理に係る経費の増加を加味した適切な規模となっているかどうかについて質問があり、今回の財政計画の見直し(料金改定)については、10年先を見据えて人口減少やエネルギー価格、材料・労務単価の上昇を見込んでおり、審議会の開催前に自治会単位で実施した「上下水道事業に関する市民意見交換会」でいただいた「物価高騰を踏まえて、ある程度改定率を抑えて欲しい」といった意見も踏まえて改定率を決定していると回答</p>

### **(3)その他**

・委員から、人口が偏在化している区域での汚水処理に対する考え方について質問があり、下水道を整備するエリアを検討する際に、公共下水道での処理と合併浄化槽での処理を線引きする時期に来ていると考えていると回答

・委員から、下水汚泥の有効利用の方法について、りんの回収からエネルギー回収への転換に対する考え方について質問があり、国の動向として、下水汚泥からの「肥料化」ないしは「肥料成分の抽出」が推奨されていることから、当面は、りん回収を継続する方針であるが、北部プラント改築の検討の中で、太陽光設備の設置や肥料以外のものへの汚泥の活用などについても検討していくと回答